NIE実践報告

1．タイトル：**☆新聞の読み比べを取り入れた情報発信のあり方について**

2．学校名

岡山県清心中学校

3．実践者名（代表者名）

西川基之　丸王祐子

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会　98人

6．単元（本時の学習課題）名

一つの社会的事象に対する各紙の主張を比較し、それを他の人に伝える。

7．目標(狙い)

各紙を読み比べ吸収した情報をきちんと整理し、第三者に分かりやすい発表をすることを意識したプレゼンテーション能力を高める。

8．評価の視点

一つの社会的事象に対する各紙の主張を読み取り、それらがきちんと比較されているか。
自分達の意見も混ぜながら、他の人に分かりやすく伝えられているか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

1学期：1分間スピーチ（一つの社会的事象を１社の記事のみ要約し、自分の意見を述べる）＝個人活動
2学期：読み比べと情報発信（一つの社会的事象に対する各紙の主張を読み比べ、発表する）＝グループ活動

10. 単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

（学習展開）
新聞記事探し（1時間）　新聞記事の要約（1時間）　新聞記事要約を班内で交換して読み、各新聞社の主張の違いを探す（1時間）　発表準備（原稿作成・発表掲示物作成）（1時間）　発表（1時間）
（留意点）
失敗を恐れないことを生徒に伝えた。生徒の多くは人前で発表することが初めてで緊張していた。そうすると発表時完全に固まり、原稿の丸読みを始め、聞き手はOne of themだと感じて飽きてしまう。そこで生徒に、「お話」による発表よりも「身体全体」による発表を心掛けさせた。原稿を100%伝える事が大切ではなく、自分たちが理解したことを伝えることが大切だからだ。
次に原稿のチェックである。①自分たちが取り組む社会的事象に対し、各紙の主張がきちんと分かりやすく入っているか。②それらをきちんと比較しているか。③全体を通し、自分たちの意見をしっかり主張しているか。以上の3点を基本に、原稿をチェックした。

11. 児童・生徒の反応、感想・意見

生徒達は新聞を多く開き、自分達が調べている社会的事象の記事が一つでも掲載されていないか一生懸命探しており、新聞と密に関わることが出来た。

12. 成果と課題

生徒は新聞の読み比べ活動を通し、同じ事件でも、各紙によって扱われ方が違っていることに気づき、確かなメディア・リテラシーを獲得していった。
また、昨年、本年度と、NIE実践指定校として同じ2学期に活動をしてきたが、これは少し早い時期なのではないかと感じた。理由は、2学期の公民の授業が「経済」を中心に勉強していくからだ。勉強した単語が新聞に載っていると、生徒の学習意欲が向上する。中高一貫である本校においては3学期が望ましいと感じた。